

佐藤先生からのメッセージ

上田自由大学の精神を明日につなぐ
—生涯学習シンポジウム「私たちのはてしない物語」に寄せて—

佐藤一子（東京大学名誉教授）

はじめに

上田自由大学100周年を記念するシンポジウムに参加できず、本当に残念です。現地での討論を楽しみにしていましたが、コロナ禍で埼玉県からの参加はできません。このたびのシンポジウムは、コロナ禍という社会的困難の中で社会教育の意義をどう再認識して、その持続可能性を模索するのかという現代社会の大きな課題にも関連しています。

自由大学100周年の節目に社会教育という学びの文化の意味を問い、市民一人ひとりにとって欠くことのできない営みとして、自由大学の精神を明日につなぐという思いを込めて上田市の皆様にメッセージをお送ります。

1. 上田自由大学の精神を次世代に繋ぐ

上田自由大学は、近代日本の社会教育の展開にはみられなかった新たな学びの場の創造でした。長島伸一先生や上田小県近現代史研究会の小平千文先生らの長年のご研究、そして日本社会教育学会でも60年以上にわたって自由大学の研究が積み重ねられています。戦後直後に上田で自由大学の復興が計画され、その後も地域に根ざす学習文化として継承し、発展させる努力がなされてきました。PTA母親文庫から生まれた上田社会教育大学も40年の息長い歩みを続けてきました。2019年の若者たちのプロジェクトで上田自由楽校が自由大学100年を記念するつどいを開催したことも、自由大学の精神を受け継ぐ素晴らしいとりくみでした。

1. 上田自由大学の精神を次世代に繋ぐ

上田市は地域文化の土壌が豊かで市民も若者も子どもたちも、社会教育の学びと文化に触れながら育ちあい、さまざまな関心を育み、多様な関係を広げています。そうした学習文化の伝統の原点として大正期上田自由大学が刻まれており、100周年を機に上田市の皆様がその歴史的な意味を再認識し、その精神を次世代につないでいこうという思いを新たにすることを願っています。

2. 三つの理念—

「民衆と学問」「働きながら学び続ける」「主体的に学びの場を創り出す」

大正期に社会改造・普通選挙権への関心の高まりを背景に、自由教育の影響を受けた上田小県地域の青年たちが社会思想・人間哲学を探求する学問を求めて、1920(T9)年に土田杏村を招いて哲学講習会を開催したことが「自由大学」創設のきっかけとなりました。当時、大学が社会に門戸を開く大学拡張・夏期大学が普及しつつありましたが、「自由大学」は大学も公的機関も関与しておらず、青年たちが主体的・自立的に知識人たちと連携して組織した自由な学びの場であったことが何よりも重要な意味をもっています。

信濃自由大学(のち上田自由大学)は反響を呼び、10年間に県内17か所、全国13か所に広がりを見て、自由大学協会が発足しました。社会教育研究の基礎を築いた宮原誠一は、自由大学運動を「大学拡張の実態をもち、純粋な民間運動であった点において世界的にも希少な事例」と評価しています。(宮原「日本の社会教育」 講座『世界の教育』第9巻、共立出版、1960年)

2. 三つの理念—

「民衆と学問」「働きながら学び続ける」「主体的に学びの場を創り出す」

自由大学には、「民衆と学問」「働きながら学び続ける」「主体的に学びの場を創り出す」という3つの基本理念があります。青年たちの自由で批判的な精神、哲学・社会思想を学ぶ意欲が、国家的な社会教化体制を突き抜けて真理探求としての学びの場を創り出し、日本の社会教育の重要な基礎を築きました。3つの理念は今なお社会教育の基本原理であり、こうした未来志向の学びの創造こそ、かけがえのない地域の無形文化遺産だと思っています。

3. 「つどう・つながる・創る」という社会教育の価値を再創造する

自由大学の理念であった「働きながら学び続ける」という生涯学習の考え方は、1980年代以降教育政策にすえられて、「生涯学習社会」という用語も普及しています。けれども日本では学校中心的な教育体制が定着して若い世代が高学歴化し、さらに情報化社会の進展によって必要な情報は簡単に入手できるという生活感覚が一般化しているため、わざわざ足を運び参加するという地域の社会教育の価値は実感されにくくなっています。コロナ禍でオンライン化が求められている事情もあり、人間らしく生き、互いに絆を深めるうえで必須の「つどう・つながる・創る」という社会教育の根本が揺らいでいる実態があります。

3. 「つどう・つながる・創る」という社会教育の価値を再創造する

一方で、人生100年時代の新たな可能性を求めて、中高年期の学び直しは社会教育の価値の再発見につながっています。また新自由主義的な経済偏重の社会で命の危機にさらされるほど「生きづらさ」を感じる人々が、子どもから高齢者まで増大していることも現代社会の厳しい現実です。コロナ禍でその傾向はさらに強まっています。

人々が人間らしい生き方を求め、共に生きていく社会のあり方を考えるうえで、社会教育の「つどう・つながる・創る」という営みは現代社会の困難を切り拓くカギになっているとあって過言ではありません。社会教育という学びの場のもつ価値を再創造することが現代的課題となっています。

むすび 上田自由大学100周年から明日へ

自由大学を創設した青年たちは、真実を探求し人間的な創造力を培うことこそが、主権者として主体的に社会と関わるうえでもっとも重要なことだと考えました。この精神は、1985年にユネスコ第4回国際成人教育会議で採択された「学習権宣言」に通じるものがあります。

教育権（「平等に教育を受ける権利」）は広く承認された人権ですが、学習権宣言ではさらに、「問い続け、深く考える権利」、「想像し、創造する権利」、「自分自身の世界を読みとり、歴史をつづる権利」を提唱しています。そして個人の力量にとどまらず、「集団的力量を発達させる権利」の保障が課題であるとして、社会の担い手を形成する学校外、成人教育・生涯学習の意義、重要性を主張しています。

むすび 上田自由大学100周年から明日へ

100年前に上田の地で青年たちが創り出した自由大学の基本精神は、21世紀の国際社会において人類の生存、持続可能な社会を支える学びとして求められている学習権の理念と響きあうものであると思います。上田自由大学100周年をふまえて、私たちは明日におかたて歩むことを問いかけられているのではないのでしょうか。